

陸上運動部部便り

2015 年 4 月号

—六大戦—

目次

| | | |
|-----|------------------------|----|
| 1 | 講評 | 1 |
| 2 | 東大記録樹立の言葉 | 2 |
| 2.1 | 男子 100m | 2 |
| 2.2 | 男子 4 × 100mR | 3 |
| 3 | 試合経過 | 3 |
| 4 | 試合結果 | 10 |
| 5 | 自己記録更新者一覧 | 14 |
| 6 | 応援 OB・OG 紹介 | 15 |
| 7 | 行事予定 | 16 |
| 8 | 連絡先 (慶弔等) | 16 |

1. 講評

監督・藤田靖浩

今年度の六大戦は、目標としていた総合 4 位には残念ながら届きませんでした。東大新記録 2 個をはじめ、好記録が生まれ、幸先の良いシーズンインとなりました。

100m で主将の藤田が 10 秒 62 の東大新 (4 位)、4 × 100 メートルリレー (泉、西村、稲葉、藤田) で 40 秒 71(4 位) の東大新、かつ日本インカレの参加標準を突破しました。

また、奥村が砲丸投で 12m74、宮原が 400mH で 53 秒 80 と関東インカレの参加 A 標準を突破しました。

このままの勢いで、関東インカレ一部昇格、対校戦全優勝を目指し、怪我ないように細心の注意を払い、しっかり練習に励んでいきたいと思えます。

尚、日本インカレに関しては、800m で軽部、走高跳で福永が既に標準記録を突破しており、4 種目での出場が決まっています。100m や競歩等、他の種目もまだまだ十分に可能性があり、更なる高みを目指せる状況ですので、シーズン後半の結果にも、是非ご期待ください。

主将・藤田旭洋

六大学という強豪校が集う中でどこまで戦えるか。冬季練習を通してしっかりとステップアップすることは出来たのか。シーズン初戦ということもあり多くの部員がこうした不安を胸に抱きつつ迎えた試合となりました。部の目標としては明治大学に勝って総合四位ということでしたが、結果だけを見ると20点差をつけられて5位という結果となりました。

しかし内容自体は決して悪くなく、フィールドは総合三位。また、トラックでは100mと4×100mRで東大記録を更新し、特に4×100mRは全日本インカレの標準を突破するという活躍が見られました。この他にも、砲丸投げや400mHなどの競技で持ち記録が上の強豪校の選手を相手にベストを出して格上の選手を凌駕するといった奮闘ぶりも見る事ができました。天候が恵まれない中でもこういった結果が出たというのは着実に力が付いていることの証だと思います。

今年の東大の目標は関東インカレ部昇格です。六大戦ではどの種目でも関東インカレ部校の選手を相手に東大の選手が互角に戦うことができていることを確認することができました。関カレで得点を見込まれる選手がしっかりと結果を残せたこと。

そして何より、部員一同が関東インカレ部昇格を十分に達成可能な目標として認識できたという意味でも、今回の六大戦には結果以上の価値があったと思います。初戦で生まれた良い流れを絶やすことなく、さらに勢いを増せるよう、部員一同精進してまいります。

最後になりますが、お忙しい中応援に駆けつけて頂いた方々、本当にありがとうございました。日頃ご支援を頂いているOB・OGの皆様、今シーズンも変わらぬご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

2. 東大記録樹立の言葉

2.1. 男子 100m

藤田旭洋

試合当日は体の調子もよく、天候に恵まれてはいないものの少なくとも自己ベストは出るだろうという確信がありました。

ただ、今回の試合は名だたるメンバーが相手ということで、記録云々の前に勝負にこだわりました。今思えば、逆説的ではありますが、本気で勝負にこだわるからこそ、自分の動きをすることに集中できたのだと思います。自分のベストを尽くさなければ格上には勝てるわけがないし、自分の動きができれば結果として順位も記録もついてくるだろうと思えたからこそ、今回の結果があったのだと思います。100mの決勝のレースの前に4継で全カレ標準を突破したこと、そしてチームメイトやOB・OGの皆様から多大な激励を頂いてから決勝のスタートラインに立てたこと。今回の結果はこういった力なしでは生まれなかったと思います。心から感謝申し上げます。

さて、冬季練習では、100mの東大記録はもちろん、それ以上に関東インカレで勝つこと。この二つを念頭に置いていました。

おそらく、自分と同レベルのスプリンターの中では僕は決してセンスのある部類ではないと思います。だからこそ、僕はその中では人一倍考えて練習をしている自信があります。練習メニューひとつとっても、何をやるか、ということ以上に”どうやるか”ということに目を向けるようにしました。今回の結果はそのような練習方針を肯定してくれたように思います。この方針のもと、当面は関カレで勝つこと。そのために、具体的には全日本インカレのA標準(10”45)を突破する力を付けることを目標として精進してまいります。

部員一同、OB・OGの皆様からのご支援に対しては結果で恩返しをしようと考えておりますので、こ

れからも東大陸上部へのご指導ご声援をよろしくお
願ひ申し上げます。

2.2. 男子 4 × 100mR

代表 稲葉啓人

短距離パートチーフの稲葉です。4 月 4 日に行われ
ました六大戦にて、泉悠太、西村智宏、稲葉啓人、藤
田旭洋のメンバーで臨んだ 4 継で順位は 4 位ではあ
りましたが、40"71 で東大新記録および全日本イン
カレの標準記録を突破することができました。

今回の 4 継は、関東インカレを見据えて、学部生 4
人でメンバーを組みました。昨シーズンは院生の竹
井さんを含めたメンバーで 40"94 を出しましたが全
日本インカレの標準にあと一歩届かず悔しい思いを
しました。「来シーズンは全日本インカレおよび日本
選手権リレー (A 標準 40"40) に出場」を目標に冬季
練習に励み、3 月の沖縄合宿にて行われたタイムトラ
イアルでは手動での計測ではありましたが、好記録
が見られました。今回の六大戦での目標は、「関東イン
カレに繋がる走りをする」とし、具体的なタイ
ムの目標は定めませんでした。少なくとも昨年を
上回るタイムを出すことができると確信しておりま
した。結果としては 40"71 という東大新記録を出す
ことができましたが、内容的には各区分でのバトン
の受け渡しは改善すべき点が多く、また 4 人の走力
も 100% 発揮することはできなかったように思われ
ます。

しかしながら、課題だらけの今シーズン最初のレー
スで全日本インカレの標準を突破できたことは大き
な自信になりました。今年の 4 継の目標は 39 秒台を
出すことです。4 人が 100% の力を発揮できれば十
分に達成可能なタイムです。まずは 3 週間後に行わ
れます関東インカレで十分に表彰台を狙う力はある
と思いますので、今回の課題を修正し 2 部優勝を目
標に頑張りたいと思います。OB・OG の皆様、六大
戦では応援ありがとうございました。今後ご指導

ご声援をよろしくお願ひします。

3. 試合経過

トラック

9:30 男子 400mH 予選

六大戦の最初を飾る 400m ハードル予選、天候は曇
り、やや肌寒い。東大からは越村 (4 年)、宮原 (4 年)
が出場する。越村は決勝進出には自己ベストを更新
するような記録が欲しいが、ケガによる練習不足が不
安である。宮原は関カレ A 標準切りの実力を存分に
発揮してもらいたい。まずは予選第 1 組、7 レーン
に越村の出場である。スタートからスピードに乗り
切れていない。序盤から遅れを取ってしまうが、最
後まで巻き返すことができず、6 着でフィニッシュ。
記録は 58.25、関カレまでに調子を取り戻してもら
いたい。次に予選第 2 組、2 レーンに宮原の出場で
ある。良い出だしを見せ、安定した走りで序盤、中
盤、少しずつ周りとの差を広げ 2 番目を走る。後半
も崩れない走りで 10 台目のハードルを跳び、磐石と
思われた 2 着だが、後ろの選手の猛追を振り切れず
微差の 3 着でフィニッシュ。記録は 53.93、自己ベ
ストの更新である。決勝でもその勢いに乗って走っ
てもらいたい。

10:05 男子 100m 予選

1 組 3 レーンに藤田 (4 年)、2 組 5 レーンに稲葉 (4
年) の出場。二人ともベスト記録は 10 秒台であり、
十分に決勝進出を狙うことができる。関東インカレ
を照準をあててぜひ好タイムを出したいところであ
るが、天気は曇り気味であり絶好とは言えないコン
ディションの中でのスタートとなった。1 組藤田は
若干スタートで遅れたが、40m 付近から伸びを見せ
た。そのまま 3 レーンの慶應の選手をかわし、ゴール
ラインを駆け抜けた。結果は 10"71(+0.1) の 3 着で
あり、決勝進出を勝ち取った。2 組稲葉は序盤から少

し硬くなってしまったのだろうか、30m 付近から先頭に少しずつ距離を広げられてしまい 10"98(+1.5) の5着でゴール。10秒台の好記録であるが、決勝進出はかなわなかった。今回のレースでは2人とも10秒台を記録したことから、選手層の厚さを感じることができる。決勝進出を果たした藤田には、決勝での活躍を期待したい。また、実力を十分に発揮できず決勝進出を果たせなかった稲葉も、午後に行われる対校4×100mRでこの悔しさを晴らしてもらいたい。

11:25 男子 3000mSC 決勝

原(3年)の出場。天候は曇り、午前中の雨も止み、長距離を走る上ではベストコンディションであると言っても過言は無いであろう。今回は、荒田(3年)、原(3年)、福永(2年)が登録されていたが、荒田が直前に高熱、福永が怪我により、一枠空けてしまうことになり、原のみが走るようになった。ただ、原も貧血を抱えた状態であり、不安が残る中でスタートを切ることになる。序盤は早稲田を先頭とするペースの速い疾走軍団には付いて行かず、戦略的判断から最後尾につけて慎重に入り、前を追って行くことにしたようだ。しかし、そのまま位置とペースを保ちながら、前を行く立教2人に追いつき、抜こうと試みるも、捉えるものの脳内のイメージ通りに上手く抜ききれないという状態が続き、中盤は苦しい展開が続く。終盤は貧血の症状が出てしまったのか、立教両選手に付いて行くことも困難になってしまい、置いて行かれてしまう。最後は苦しい表情ながらも懸命の走りでゴール。記録は11'02"22、順位は10位であった。残念ながら今回は得点圏に至ることは出来なかったが、血の気が多くなって本調子になった時に彼が何を起こしてくれるのか、楽しみである。

11:45 男子 400m 予選

1組6レーンに小西(4年)、2組7レーンに森本(3年)の出場。共に同じ組の多くの選手が格上であり、

持ちタイムだけをくらべると厳しいレースが予想された。今シーズン最初の対校戦であり、冬練の成果を発揮できるかがポイントである。小西は東大の短長では随一の実力者でありその意地を見せたいところだ。レースでは、一部校の選手達が前半から飛ばしてくる中、小西も負けじとスピードにのって競るように走っていく。しかし、150m 過ぎくらいから徐々に内側の選手が迫ってきて第3コーナーから第4コーナーにかけて抜かされてしまう。ホームストレートでも懸命に足を運ぶも前との差は縮まらず、49"52の5着でフィニッシュとなった。森本は一週間前の記録会で200mの自己ベストを大きく更新し、今日の試合でもそのスピードを生かしたい。レースでは、他の選手とは対照的に前半は抑えめでゆっくりのスタートとなった。その後、前を少しずつ追っていくがなかなか近づいてこない。最後の直線で一つ前の慶應を懸命に追うが差を詰め切れることは出来ず50"20の5着でのゴールとなった。二人とも、コンディションも悪く、強豪選手が多い中なかなか思い通りのレースをすることはできず決勝進出を果たすことはできなかった。しかしこの経験は関東インカレの舞台で必ず生きてくるだろう。一月後、また一回り成長した彼らの活躍を期待したい。

13:00 男子 110mH 予選

天候はポツリと小雨が降り、寒い中でのレースとなった。ホームストレートでは強い追い風が吹き、ハードル競技にとっては悪くないコンディションだった。他大学に持ち記録では杉森(6年)、加来(3年)ともに大きく離されていたが、高レベルなレースの中での決勝進出、そして今年から記録が上がった関東インカレ標準記録の突破が期待された。1組2レーンに杉森(6年)の出場。アプローチで杉森は軽く肉離れを起こし、出遅れた。その後、足をかばいながらも懸命に前方を追ったが差は広まるばかりで先頭には大きく離された。最終的に15"60の5着でフィニッシュした。このとき風は+3.5mであった。2組

6レーンに加来(3年)の出場。加来は今年は400mHに重きを置く方針だが、110mHの次期エースとして期待がかかる。号砲とともに勢いよく1台目のハードルへと向かった。しかし、他校の選手と比較すると、ハードル間のピッチが遅いのが否めず、徐々に離されてゆく。16"09の5着という結果に終わってしまった。この時の風は+1.4mだった。六大戦では東大が厳しい闘いを強いられるのは事実だが、ハードル競技において決勝に進出することができなかったのはやはりスプリント力不足であろうか

13:55 男子 1500m 決勝

西川(3年)、小南(4年)の出場予定であったが、西川が体調不良のため原(M2)が代わって出場した。当日は雨の予報。幸いレースは雨の中では行われなかったものの、少し肌寒い気温のなか行われた。エントリータイムでは、上位入賞は厳しいものであったが7位入賞は期待でき応援にも力が入った。小南は序盤、積極的に集団の前方で先頭についていたが、400m通過後、後続の選手に抜かれ集団後方に下がり、厳しいレース展開となった。ラスト300mからスパートし、2人を抜くも及ばず、4'04.76で9位となった。原は当日、急遽出場することになったので対校戦に向けて調整ができていたわけではなかった。スタートから落ち着いて集団後方に付け、レースを展開した。その後、じわじわと先頭から離され、集団のスパートに対応できず、4'09.35で10位という結果となった。今回は、格上との対校戦で、西川の欠場というアクシデントが重なったが2人とも健闘した見事な試合であった。今回の経験から、残る対校戦では上位にくい込んでほしい。

14:20 男子 4 × 100mR 決勝

男子4 × 100mRには、走順に4年泉、3年西村、4年稲葉、4年藤田のオーダーにて出場。今季初の4 × 100mRの対校戦である。冬期練を経て個々の走力も高まり、今季のメンバーでのリレーは東大史

上最速と目されている。気温が低く肌寒いコンディションではあったが、アンカーの藤田が早速100mで東大記録を更新(10"62)するなど、好記録への期待が高まっていた。東大は一番インレーンの2レーンに、そのアウトレーンには順に慶應、早稲田、法政、立教、明治。号砲。1走は泉。個人種目ではベストを更新できず歯痒い思いをし、リベンジに燃える。軽快なピッチを刻みアウトの慶應に喰らいついていく。法政、早稲田の両校がリードを奪い、慶應にもじりじりと離されていくが、大外の立教、明治とはほぼ一線。やや詰まり気味のバトンパスで西村へ。西村は専門は走り幅跳びであるがスプリントも実力があり、昨年から風に恵まれず公認のベストを更新できていないが従来の東大記録に匹敵する走力を持つ。アウトレーンの1部校を相手に遜色ない走りを見せる。さすがにやや差が開くもこの時点で立教、明治を追い抜き4位につける。3走は短距離チーフ、稲葉。スムーズなバトンパスから加速していく。100mは予選敗退に終わったがその雪辱を果たしたいところ。200mを得意とし、長年培ってきたコーナーワークでトップに追いすがる。トップは早稲田、法政の競り合いで、少し離れて慶應、そのあとに東大。アンカーへのバトンパスはきっちりと繋がった。アンカーは藤田。今大会100mで4位に入り東大記録を更新。前方を走る慶應を追従する。互角の走りを見せるが、差を詰めることができない。そのまま4位でフィニッシュへ。このときの記録は40"71、堂々の東大新記録を打ち立て、全カレ標準を突破した。今シーズン初戦であり、個々の課題が残る中のレースであったが苦も無く東大記録を出せた背景には、前述したが個々の走力が確実に昨シーズンに比べアップしていることが挙げられる。まだまだ粗削りで改善の余地はあり、さらなる記録の更新が見込める。今大会で1部校を相手に堂々渡り合えたことはチームとして自身になったことであろう。関カレの決勝で勝負するために、個々人が何が課題なのかをきちんと把握し、更なる飛躍を見せてほしい。

14:45 男子 800m 決勝

軽部(3年)、加藤(3年)の出場。2人共去年の六大戦にも出場しており、軽部が6位、加藤が9位だった。今年は昨年よりも1つでも順位を上げ、1点でも多くの点数を取ることが求められる。2人は同一レーンからスタート、軽部が先を走る形となる。ブレイク後は軽部が2番手、加藤は7、8番手につける。軽部は400手前で2人に抜かれると450付近から疲れの色が見え始め、さらに2人に抜かれてしまう。一方加藤は同じ位置でペースを崩すことなく淡々と走り続ける。650手前で軽部はスパートに入り、最終カーブで1人抜くと、ホームストレートでさらに1人抜き返し4位でゴール。タイムは1'53"91、ゴール後はガッツポーズともとれる仕草を見せた。加藤は最後に1人に追いつかれ、8位でゴール。タイムは1'55"08と自己ベストであった。2人共素晴らしい走りを見せてくれた。今後にも期待したい。

15:00 男子 400mH 決勝

400m ハードル決勝が始まる。相変わらずの曇りであるが、みんなの期待を胸に宮原が7レーンを走る。

レースがスタート。予選と変わらないように見えた走りだが、さすがは六大戦の決勝である、周りのスピードがやや宮原を上回っているか。1レーン内側の選手が初めから飛ばしていく中動ぜずに自分の走りをする宮原、最後のコーナーを回るとその選手との距離は微差である。最後のハードルを越え必死で追い越そうとするも届かず6着でフィニッシュ。記録は53 80、またも自己ベストの更新である。自分よりも上のレベルの選手とのレースは良い経験になったであろう。順調に記録を伸ばしているその調子を維持して関カレに臨んでもらいたい。

15:30 男子 100m 決勝

6レーンに藤田(4年)の出場。藤田は先ほど行われた対校4×100mRにおいて東大記録更新及び全カレ標準記録突破を果たしており、この良い流れの中

で100mでも好記録を期待したい。同じ組には慶應の小池などレベルの高い選手がひしめいており、この中でいかに実力を発揮するかがカギである。スタートは予選よりは滑らかになったように感じられるが、4、5レーンの選手に先を行かれてしまう。しかし藤田は慌てなかった。得意の後半で伸びを見せ、他の2選手を抑え、結果は10"62(+2.0)の4位となった。この記録は平成16年にたてられた東大記録の10"69を上回る公式タイムであり、藤田本人はもちろん、部員一同大いに盛り上がった。レース後藤田は、レースでの走りは不恰好で崩れた走りになってしまったが、これはまだまだ自分の走りはよくしていけるといことなのだ、と語った。今回は全日本インカレの標準記録に惜しくも及ばなかったが、さらなる成長を遂げ、全日本インカレへの出場権を得ることを期待したい。

16:40 男子 5000m 決勝

小松(5年)、網谷(4年)の出場。午前中の雨もやみ、まさに花冷えというべき肌寒い気温で、好記録の期待できるコンディションであった。小松、網谷ともに冬季練から好調がつづいており、3月の立川ハーフでは両者ともに自己ベストを更新している。箱根駅伝の常連校である早稲田、明治、法政と3校の力は圧倒的であるが、慶応、立教の選手には自己ベストでは負けているものの射程圏内であり、どうにか慶応、立教を完全に抑えて1点をもぎ取りたいところであった。号砲とともにスタート。やはり早稲田、明治、法政がとびだし集団を形成し、その集団に立教の選手2人、慶応の選手1人がついていき、小松、網谷は慶応のもう1人の選手とともに10位集団を形成する。1000mの通過は1位集団が2'48、小松、網谷の走る10位集団は2'58であった。いいペースである。1500m地点近くでじわじわと1位集団から立教、慶応の選手が離れ始める。一方、小松はまだ余裕の表情で前との差を徐々に詰めていく。網谷も小松に引っ張ってもらう形で前を追う。2000m通過

は6'00。ここで小松が立教の選手1人を抜く、1秒遅れて網谷も立教をとらえる。2600m地点で小松が慶応の選手もとらえる。この時点で小松は8位まで浮上している。応援にも熱がこもる。3000m通過小松9'05、網谷9'09であった。その後、前から落ちてきた立教の選手もこの集団に加わり、7位集団を形成する。小松は集団の後ろで虎視眈々と前に出る機会を窺う。4000m通過小松12'21、網谷12'35であった。ついにラスト1周の鐘が鳴ると集団の後ろにいた小松が飛び出す。立教の選手はこのスパートについていけないが、慶応はついていく。ラスト100mまで並走するが、ここで小松が気合のラストスパート。これには慶応もついていけない。小松はガッツポーズとともに15'12"31の7位でゴール。ゴールした瞬間長距離パートの面々が小松を囲み祝福する。網谷もラストスパートを利かせ、4年越しの自己ベストとなる15'29"31の11位でゴール。「うれしいわ」とぼそりと言った網谷は本当にうれしそうであった。歓喜のあまり学生主務の鈴木(4年)は「俺、泣きそう」と筆者にもらした。それほどに、熱いレースであった。今回は強豪校相手に作戦通りに戦うことができ、目標を達成することができた。冬季練の成果が確実に表れていると言えよう。この流れに乗って、トラックシーズン、箱根駅伝予選会と、好記録を期待したい。

17:10 男子4×400mR 決勝

六大戦の最終種目となる4×400mRには小西(4)-稲葉(4)-森本(3)-河野(2)のオーダーで出場。この日、4×100mRでは東大新記録が生まれたが、マイルに関しても今年の短長陣は粒揃いのメンバーが揃っており、好勝負・好記録が期待される。

1走の小西は個人では期待の集まる中予選敗退に終わっており、マイルで雪辱を果たしたいところだ。1番外、7レーンからスタートした小西は前半から積極的にレースを進め、内側の1部の強豪と互角に渡り合う。第3コーナーに入り、徐々に内側から慶

應・早稲田らが進出してくるが小西も懸命に粘る。ラストもしっかりまとめ、小西は3番手争いで2走稲葉にバトンを繋いだ。稲葉はこの日更新された4×100mRの東大新記録のメンバー。マイルでも好走が期待される。3番手争いでバトンを受け取った稲葉は、バックストレートに入ったところで明治・法政と並ぶが、1部の強豪相手にも怯むことなくレースを進め、そのまま東大を含めた3チームは並走したまま第3コーナーに突入する。コーナーを抜けラストの直線に入ってもなお、稲葉は粘りの走りで明治・法政の2校に懸命に喰らい付く。最後はさすがに苦しくなり、前を行く2校に数メートル差をつけられたものの圧巻の走りで3走の森本にバトンが繋がった。森本も、小西同様個人種目での予選敗退の悔しさをこのレースにぶつける。後半型の森本はコーナーを抜けて200mまでは、自分のペースを守りながら前を追走する。第3コーナーに入ったところで切り替えて、4番手の明治を懸命に追うがなかなか差は詰まらない。最後の直線、明治との差が徐々に縮まり始めたが、劇的に差を詰めるまでには至らない。それでも、前との差を広げられることもなく5番手でアンカーの河野にバトンが渡った。河野は高校時代の持ち記録から、入部当初から周囲の期待も高く、満を持しての初めての対校のマイルメンバーになった。河野は4番手をいく明治との差を維持しながら、軽やかにピッチを刻みつつレースを進める。そしてバックストレートを抜け第3コーナーに入ると、徐々に明治との差を詰め始める積極的なレースを展開する。差を詰めながら迎えた最後の直線、ラストスパートをかける明治を必死に追う粘りの走りを見せるが、なかなか差は縮まらない。結局そのまま5位でゴール。このときの記録は3'16"96であった。

途中まで1部の強豪校相手に互角のレースを展開し、好タイムをマーク。好調な4継チームに負けじと、関東インカレでは決勝の舞台で表彰台・全日本インカレの標準の突破を狙う中で、上々のシーズン初戦となった。

フィールド

10:00 男子走幅跳 決勝

今大会の出場選手は飯島(4年)、西村(3年)であった。大会当日はここ数日とは違ってかわって気温がかなり低く、小雨も時折見られた。二人とも先シーズンは関東インカレ2部A標準を突発した実力の持ち主で、非常にレベルの高いこの東京六大学対抗陸上競技大会といえども上位に食い込み得点を獲得すると期待されていた。ところがいざ競技が始まってみると二人ともファールや踏み切り板に足が届いていなかったり、白旗が上がっても首をかしげて悔しげに砂場を後にする姿がみられた。恐らく、先日まで二週間ほど沖縄に滞在していた影響で、その時の動きそしてその感覚、イメージと悪天候での動きが齟齬をきたし思わず首をかしげてしまったのだろう。とは言うものも最終結果は飯島は6m74(+0.0)で7位、西村は7m13(-0.4)で4位で得点に絡むことができた。二人とも関東インカレでも入賞及び得点が期待できる選手なので来月が楽しみである。

10:00 男子砲丸投 決勝

四月某日某所にて、とある漢二人が熱く砲丸を投げあい死闘を繰り広げようとしていた。宮野「奥村よ、所詮貴様に私を超えることは出来ぬ！この戦いも私が制してくれるわ！」奥村「魔王宮野、もうお前の力など怖くなど無いぞ。お前が実習に時間を取られてあまり練習ができないでいる間も俺は修行を重ねてきた。今こそ okinawa 合宿の成果見せてやる！先手必勝、最初の一撃で終わらせてやる！てりゃー！」その瞬間、奥村の全身からかつてない程のオーラが溢れ出し自己ベストを大幅更新する12m74(編集者注：4位・6点)を叩き出した。宮野「なっ、なに！まさかこれほどとは...くそっ、11m43(編集者注：6位・4点)だどっ？力が発揮できない...これが奴の今の実力だとも言うのか？」奥村「師匠、やりましたよ。これで関カレのA標準も突破しました。これか

らも暖かく見守っていて下さい。」宮野「ちくしょう、これで終わりだと思うなよ...必ず力を付けて捲土重来を...」こうして、彼らの六大戦での砲丸投げの死闘は終わったのであった。(執筆注：六大戦砲丸投げ対校の話です。)

12:30 男子円盤投 決勝

大事なシーズン初戦。朝から雨がシトシトと降るパツとしない天気の中で開始した六大戦。円盤投の時間がやってくると同時に雨が上がった。まるで選手たちの2015年度の門出を快く受け入れてくれるかのように。東京大学からは宮野(6年)、土井(2年)の出場。天気を味方につけ幸先の良いシーズンスタートを切れるのか。まず1投目、土井は思い切りの良い投擲を見せたが大きく右に逸れネットを切り裂かんとする勢いで籠にぶつけ、ファール。一方宮野は前に向かって飛んだはいいものの、グラグラの状態が進み25m地点に墜落。シーズン1投目ということで緊張したのか両名思うような投げが出来ない。2投目、土井の円盤はUFOさながら、地面と平行を保ち綺麗に飛んで行く。30mを大きく超える地点に着地し誰もが関カレB標突破を確信したその時、無情にも上がる赤い旗。土井の足は一步その領域を超えてしまっていた。宮野は1投目と同様にグラグラな投擲。自ら記録を放棄。3投目、土井は三ファールの重圧から逃れられず、円盤は右に大きく逸れ本人も前から飛び出す最悪の結果に。今大会では土井NMとなる。残された宮野。ここまでまともな投擲ができておらず、ここで修正できなければエイト落ちという場面で、重圧を跳ね除け本来の投擲を見せる。綺麗に飛んだ円盤は35m付近に着地。記録は34m69となる。以後4投目、5投目はファールとするものの6投目で34m93と記録を伸ばし3位、5点を獲得した。6年目の貫録を見せた宮野と試合慣れしていない土井との差がでてしまう結果となった。ただ土井の2投目は確かに30mを超えたものであり、確かなポテンシャルを秘めている。これからの記録会そし

て関カレでの活躍を期待しよう。

12:30 男子走高跳 決勝

竇田(2年)の出場。当日は、前日までの暖かい陽気とは一転肌寒く、決していいコンディションではなかった。竇田は、沖縄合宿でのトライアルでは1m75の昨シーズンベストを跳んでおり、調子を上げてきている。試合は1m70からのスタート。試合前は動きが硬く、いつもより高い高さからのスタートであったが、皆の心配をよそに1m70を軽々クリア。しかし1m75では3本とも高さが出ず、結果は1m70で8位に終わり、得点に絡むことはできなかった。3年で、昨シーズン2m11を跳んだ福永は、腰の調子が悪く、関東インカレにベストなコンディションで臨むため今大会は欠場した。本試合での優勝者の記録が2m05で、十分優勝に絡む可能性があったことが悔やまれる。本人も試合後に出場しておけばよかったと語っていた。ぜひ、関東インカレでよい記録を出して、東大の一部昇格に貢献してもらいたい。

14:00 男子棒高跳 決勝

上野(院1年)と松下(3年)の出場。院試と卒論に追われ、練習不足の上野。一方それとは対照的に、松下は冬季練の成果を見せるべく大事な初戦であった。

松下は3m80と、ベストより低めの高さからのスタート。スピードのある助走から、ポールを立てたその瞬間、松下の体が地上1mで宙を舞った。ポールから手が離れてしまったのである。二跳目も同じく宙返り。そして、三跳目、部員が不安そうに見守る中、松下の体はしっかり4mまで上がった。しかし、ポールを握ることに意識が向きすぎたせいか、クリアランスがうまくいかず失敗。悔しい結果となった。上野は、4m30からのスタート。あっさりとクリアする。続く4m40cmも簡単にクリア。部員一同、彼には練習が必要ないんじゃないか、と盛り上がる。監督も「相変わらず足遅いな」と上機嫌。続く4m50も元主将の貫禄でクリア。しかし、やはり高さが上が

るにつれて練習不足が祟り、4m60は失敗。慶応の選手が5m00を跳び優勝したのに続き、準優勝という結果だった。両者悔しさの残る結果になったが、松下はこれからシーズンにかけて好記録が期待できる。上野は院生として引き続き東大陸上部を盛り上げてくれるだろう。

15:00 男子三段跳 決勝

今回の出場選手は田中(4年)、吉田(3年)であった。大会当日は気温が非常に低く、雨も見られコンディションは悪かった。記録を出すというよりは他大学の選手に勝つことが求められた。吉田はこれまでに関東インカレ2部A標準を突破しており田中はB標準に迫る記録を持っている。非常にレベルの高いこの東京六大学対抗陸上競技大会であるが吉田は上位に食い込み田中も得点に絡むことが期待された。吉田はいつも通りダイナミックな跳躍をみせ14m半ばの好記録を残し実力の高さが見られた。関東インカレでの活躍がみられそうだ。一方田中は本調子とはいかなかったようだ。最終結果は田中は13m45(+0.7)で8位、吉田は14m49(-0.2)で6位で得点に絡むことができた。田中には関東インカレまでの間に調子を上げて何とか標準記録を切って出場して活躍してほしい。

15:00 男子やり投 決勝

15:00から行われたやり投げには奥村(3年)、杉山(4年)が出場した。午前中に時々降っていた雨は止んだものの、曇り空で気温がさほど上がらないコンディションでの試合だった。やり投げには10人の選手がエントリー。申請記録では60mを越える記録を持つ選手も数人含まれておりハイレベルな試合が予想されていたが、東大の二人はどこまで食い込めるか。杉山は上手く力をやりに伝えることが出来ず、3投目までの試技で43m24という記録に留まる。奥村は怪我明けの復帰試合ということもあってか59m台のベストを持つものの、3投目までの試技で49m92とい

う記録に留まる。3 投目が終わって杉山が 8 位、奥村が 7 位となりベストエイトに残るものの、この時点で 60m 以上の記録を持つ選手が 5 名おり、かなりハイレベルな試合が展開されていた。杉山は 4 投目以降も思うように記録を伸ばせず、43m57 で競技終了。8 位であった。奥村は感覚を取り戻して来たのか、50m 越えの投擲を見せ、57m29 で競技を終え、順位を一つ伸ばし 6 位であった。3 月の中旬の沖縄合宿の時とは気候の違いが大きく、あまり実力を出し切れなかったところはあるだろうが、シーズン初戦にしては大健闘だったと言えるだろう。グラウンド改修も終わり駒場のグラウンドが再び使えるようになった。ここで今一度技術に磨きをかけ、これからの試合では二人ともダイナミックな投擲を見せてもらいたい

4. 試合結果

男子 100m 決勝

| | | | |
|--------|-------|----|-------|
| 1 | 小池祐貴 | 慶大 | 10"34 |
| 2 | 橋元晃志 | 早大 | 10"35 |
| 3 | 大瀬戸一馬 | 法大 | 10"50 |
| 4 | 藤田旭洋 | 東大 | 10"62 |
| 5 | 西垣佳哉 | 法大 | 10"69 |
| 6 | 永田駿斗 | 慶大 | 10"84 |
| (+0.1) | | | |

男子 100m 予選

| | | | |
|------------|------|----|---------|
| 1 組 (+0.1) | | | |
| 3 | 藤田旭洋 | 東大 | 10"71 Q |
| 2 組 (+1.5) | | | |
| 5 | 稲葉啓人 | 東大 | 10"98 |

男子 400m 決勝

| | | | |
|---|-------|----|-------|
| 1 | 木村賢太 | 早大 | 47"60 |
| 2 | 愛敬彰太郎 | 早大 | 47"64 |
| 3 | 矢野琢斗 | 法大 | 47"82 |
| 4 | 西村定喜 | 明大 | 48"98 |
| 5 | 中西大輔 | 明大 | 48"30 |
| 6 | 伊藤健太 | 法大 | 48"92 |
| 7 | 塩津和輝 | 慶大 | 49"26 |

男子 400m 予選

| | | | |
|-----|------|----|-------|
| 1 組 | | | |
| 5 | 小西慶治 | 東大 | 49"52 |
| 2 組 | | | |
| 6 | 森本淳基 | 東大 | 50"20 |

男子 800m 決勝

| | | | |
|---|------|----|---------|
| 1 | 伊澤賢人 | 早大 | 1'50"70 |
| 2 | 吉田貴洋 | 早大 | 1'50"93 |
| 3 | 村上昂輝 | 慶大 | 1'51"07 |

| | | | |
|----|-------------|----|---------|
| 4 | <u>軽部智</u> | 東大 | 1'53"91 |
| 5 | 新橋基功 | 明大 | 1'54"50 |
| 6 | 高橋侑希 | 立大 | 1'54"53 |
| 7 | 中村彩人 | 法大 | 1'55"08 |
| 8 | <u>加藤騎貴</u> | 東大 | 1'55"08 |
| 9 | 小西由也 | 法大 | 1'56"18 |
| 10 | 安藤秀行 | 明大 | 1'57"27 |
| 11 | 岡田晴重 | 立大 | 1'58"14 |
| 12 | 中谷浩崇 | 慶大 | 2'00"16 |

男子 1500m 決勝

| | | | |
|----|-------------|----|---------|
| 1 | 福田兼士 | 法大 | 3'54"86 |
| 2 | 保坂拓海 | 明大 | 3'54"86 |
| 3 | 坂東悠汰 | 法大 | 3'55"70 |
| 4 | 池山謙太 | 早大 | 3'55"91 |
| 5 | 出口翔 | 早大 | 3'59"47 |
| 6 | 中谷浩崇 | 慶大 | 3'59"47 |
| 7 | 竹山直宏 | 明大 | 4'01"49 |
| 8 | 前田啓志 | 立大 | 4'02"59 |
| 9 | <u>小南直翔</u> | 東大 | 4'04"76 |
| 10 | <u>原慎一郎</u> | 東大 | 4'09"35 |
| 11 | 守家英斗 | 慶大 | 4'11"83 |
| 12 | 笠原祥多 | 立大 | 4'18"45 |

男子 5000m 決勝

| | | | |
|----|-------------|----|----------|
| 1 | 柳利幸 | 早大 | 13'58"64 |
| 2 | 足羽純実 | 法大 | 14'01"85 |
| 3 | 中村信一郎 | 早大 | 14'05"77 |
| 4 | 木村慎 | 明大 | 14'11"61 |
| 5 | 末次慶太 | 明大 | 14'13"06 |
| 6 | 中村涼 | 法大 | 14'37"63 |
| 7 | <u>小松息吹</u> | 東大 | 15'12"13 |
| 8 | 榎本悠希 | 慶大 | 15'15"63 |
| 9 | 大西政徳 | 立大 | 15'20"59 |
| 10 | 皆川尚人 | 立大 | 15'26"87 |

| | | | |
|----|-------------|----|----------|
| 11 | <u>網谷直紀</u> | 東大 | 15'29"31 |
| 12 | 中野真志 | 慶大 | 15'45"69 |

男子 110mH 決勝

| | | | |
|---|-------|----|-------|
| 1 | 高山 峻野 | 明大 | 13"98 |
| 2 | 野本周成 | 早大 | 14"04 |
| 3 | 竹吉 大記 | 早大 | 14"34 |
| 4 | 川島 滉平 | 法大 | 14"68 |
| 5 | 川口勇太郎 | 慶大 | 14"87 |
| 6 | 加藤 秀彬 | 慶大 | 14"85 |
| - | 増田 陽介 | 明大 | 欠場 |

(+2.6)

男子 110mH 予選

| | | | |
|------------|--------------|----|-------|
| 1 組 (+3.5) | | | |
| 5 | <u>杉森 康平</u> | 東大 | 15"60 |
| 2 組 (+1.4) | | | |
| 5 | <u>加来宗一郎</u> | 東大 | 16"09 |

男子 400mH 決勝

| | | | |
|---|-------------|----|-------|
| 1 | 中野直哉 | 早大 | 51"76 |
| 2 | 石田裕介 | 早大 | 52"34 |
| 3 | 濱井涼介 | 法大 | 52"93 |
| 4 | 松本岳大 | 慶大 | 53"27 |
| 5 | 岡田壮平 | 法大 | 53"61 |
| 6 | <u>宮原弘季</u> | 東大 | 53"80 |
| 7 | 水野佑紀 | 立大 | 56"14 |

男子 400mH 予選

| | | | |
|-----|--------------|----|---------|
| 1 組 | | | |
| 6 | <u>越村 真至</u> | 東大 | 58"25 |
| 2 組 | | | |
| 3 | <u>宮原 弘季</u> | 東大 | 53"93 Q |

男子 3000mSC 決勝

| | | | |
|----|-------|----|----------|
| 1 | 三浦 雅裕 | 早大 | 9'03"67 |
| 2 | 阿部 泰久 | 法大 | 9'16"07 |
| 3 | 太田 翔 | 明大 | 9'35"80 |
| 4 | 浅川 倅生 | 早大 | 9'35"84 |
| 5 | 柳川 和史 | 法大 | 9'45"34 |
| 6 | 藤井 一樹 | 慶大 | 9'47"50 |
| 7 | 莊林 豪 | 慶大 | 9'50"62 |
| 8 | 長谷川俊太 | 立大 | 9'57"58 |
| 9 | 黒崎 晃 | 立大 | 10'21"18 |
| 10 | 原 耕資 | 東大 | 11'02"22 |
| — | 荒田 彰吾 | 東大 | 欠場 |

男子4×100mR 決勝

| | | |
|--------------|----|-------------|
| 1 | 早大 | 39"61 (大会新) |
| 2 | 法大 | 39"86 |
| 3 | 慶大 | 40"26 |
| 4 | 東大 | 40"71 |
| 5 | 明大 | 41'68 |
| 6 | 立大 | 42"12 |
| (泉-西村-稲葉-藤田) | | |

男子4×400mR 決勝

| | | |
|---------------|----|---------|
| 1 | 早大 | 3'10"52 |
| 2 | 法大 | 3'11"70 |
| 3 | 慶大 | 3'11"90 |
| 4 | 明大 | 3'15"18 |
| 5 | 東大 | 3'16"98 |
| 6 | 立大 | 3'23"27 |
| (小西-稲葉-森本-河野) | | |

男子走高跳 決勝

| | | | |
|---|------|----|------|
| 1 | 小川僚太 | 法大 | 2m05 |
| 2 | 芋川駿 | 法大 | 2m05 |
| 3 | 刈田真人 | 慶大 | 2m00 |
| 4 | 仲野遼 | 早大 | 1m95 |

| | | | |
|---|------|----|------|
| 5 | 谷口陽亮 | 明大 | 1m90 |
| 6 | 源内寛己 | 慶大 | 1m85 |
| 7 | 佐藤庄介 | 立大 | 1m80 |
| 8 | 竇田雅治 | 東大 | 1m70 |
| — | 福永大輔 | 東大 | DNS |

男子棒高跳 決勝

| | | | |
|---|------|----|------|
| 1 | 野田涼平 | 慶大 | 5m00 |
| 2 | 上野隆治 | 東大 | 4m50 |
| 3 | 小笹恭平 | 法大 | 4m30 |
| 4 | 廣瀬卓 | 明大 | 4m30 |
| 5 | 佐藤丞 | 慶大 | 3m80 |
| 6 | 竹内陸人 | 法大 | 3m00 |
| 6 | 中山雅晴 | 立大 | 3m00 |
| — | 松下周平 | 東大 | NM |

男子走幅跳決勝

| | | | |
|----|------|----|-------------|
| 1 | 松添基理 | 法大 | 7m51 (+1.1) |
| 2 | 小室慧 | 慶大 | 7m48 (-0.5) |
| 3 | 高野恭平 | 法大 | 7m33(+1.2) |
| 4 | 西村智宏 | 東大 | 7m13(-0.4) |
| 5 | 三上良英 | 慶大 | 7m11(-0.5) |
| 6 | 前田淳 | 早大 | 6m79(-0.4) |
| 7 | 飯島靖成 | 東大 | 6m74(±0.0) |
| 8 | 上條智之 | 明大 | 6m71(-0.1) |
| 9 | 松江拓哉 | 立大 | 6m06(-1.2) |
| 10 | 上野広貴 | 立大 | 5m92(+0.4) |
| — | 西和音 | 明大 | DNS |
| — | 根岸勇太 | 早大 | DNS |

男子三段跳決勝

| | | | |
|---|------|----|-------------|
| 1 | 菊池真生 | 慶大 | 14m84(+0.7) |
| 2 | 伊佐直樹 | 明大 | 14m75(+0.4) |
| 3 | 酒巻陽平 | 法大 | 14m70(+0.4) |
| 4 | 児島有伸 | 慶大 | 14m67(-1.4) |
| 5 | 西和音 | 明大 | 14m65(-0.4) |

| | | | |
|----|-------------|----|-------------|
| 6 | <u>吉田侑弥</u> | 東大 | 14m49(-0.2) |
| 7 | 石井 稔太 | 法大 | 14m34(-0.3) |
| 8 | 田中恭平 | 東大 | 13m45(+0.7) |
| 9 | 佐藤庄介 | 立大 | 13m26(+0.5) |
| 10 | 上野広貴 | 立大 | 13m26(-0.5) |
| - | 仲野遼 | 早大 | NM |
| - | 須田隼人 | 早大 | DNS |

男子砲丸投決勝

| | | | |
|----|-------------|----|-------|
| 1 | 香山勇輝 | 法大 | 15m20 |
| 2 | 高橋剛志 | 法大 | 13m86 |
| 3 | 中川雄太 | 早大 | 13m31 |
| 4 | <u>奥村俊樹</u> | 東大 | 12m74 |
| 5 | 小林祐貴 | 慶大 | 11m50 |
| 6 | <u>宮野涼至</u> | 東大 | 11m43 |
| 7 | 劔持優太 | 早大 | 10m89 |
| 8 | 土屋義 | 立大 | 10m83 |
| 9 | 加賀見康晴 | 慶大 | 10m48 |
| 10 | 真田翔也 | 明大 | 10m41 |

男子円盤投 決勝

| | | | |
|---|--------------|----|-------|
| 1 | 香山 勇輝 | 法大 | 38m97 |
| 2 | 沖見 拓真 | 法大 | 38m51 |
| 3 | <u>宮野涼至</u> | 東大 | 34m93 |
| 4 | 中川 雄太 | 早大 | 34m22 |
| 5 | 小林 祐貴 | 慶大 | 32m48 |
| 6 | 劔持 優太 | 早大 | 31m83 |
| 7 | 中山 雅晴 | 立大 | 31m16 |
| 8 | 海老原正樹 | 慶大 | 28m57 |
| 9 | <u>土井 雅人</u> | 東大 | NM |

男子やり投決勝

| | | | |
|---|-------|----|-------|
| 1 | 望月雄太 | 法大 | 69m90 |
| 2 | 真田翔也 | 明大 | 64m64 |
| 3 | 海老原正樹 | 慶大 | 64m52 |
| 4 | 平井健太 | 慶大 | 60m50 |

| | | | |
|----|-------------|----|-------|
| 5 | 劔持優太 | 早大 | 60m35 |
| 6 | <u>奥村俊樹</u> | 東大 | 57m29 |
| 7 | 田堀智大 | 立大 | 57m14 |
| 8 | <u>杉山耕平</u> | 東大 | 43m57 |
| 9 | 香山勇輝 | 法大 | 42m20 |
| 10 | 中川雄太 | 早大 | 35m60 |

男子総合順位

| | | |
|---|----|-------|
| 1 | 法大 | 139.5 |
| 2 | 早大 | 123 |
| 3 | 慶大 | 89 |
| 4 | 明大 | 63 |
| 5 | 東大 | 42 |
| 6 | 立大 | 9.5 |

5. 自己記録更新者一覧

(2014.11.1～2015.4.4)

学年は大会開催時のもの

11/1,2 第20回東大競技会

| | | |
|-------|-----------|----------|
| 5000m | 松本啓岐 (1年) | 15'30"00 |
| 5000m | 須藤克誉 (1年) | 16'23"06 |
| 5000m | 坂井優太 (1年) | 17'14"96 |

11/16 第27回上尾シティマラソン

| | | |
|-----|------------|---------|
| ハーフ | 松本啓岐 (1年) | 1:10'06 |
| ハーフ | 大日方孝輝 (1年) | 1:11'37 |
| ハーフ | 田村和也 (1年) | 1:11'43 |
| ハーフ | 妹背雄太 (1年) | 1:12'17 |
| ハーフ | 張恭輔 (1年) | 1:13'25 |
| ハーフ | 須藤克誉 (1年) | 1:13'33 |
| ハーフ | 岩淵康太 (2年) | 1:14'16 |
| ハーフ | 佐藤駿 (3年) | 1:14'29 |
| ハーフ | 小田貴大 (1年) | 1:17'27 |
| ハーフ | 福永亮 (1年) | 1:18'47 |
| ハーフ | 石黒駿 (1年) | 1:19'09 |
| ハーフ | 坂井優太 (1年) | 1:20'24 |
| ハーフ | 菅原大地 (1年) | 1:21'54 |
| ハーフ | 梶原秀朗 (1年) | 1:22'24 |

11/29 第48回平成国際大学陸上競技会

| | | |
|--------|-----------|----------|
| 10000m | 田村和也 (1年) | 33'17"40 |
| 10000m | 須藤克誉 (1年) | 33'46"83 |

12/6,7 第242回日本体育大学競技会

| | | |
|--------|-----------|----------|
| 5000m | 松本啓岐 (1年) | 15'24"93 |
| 5000m | 坂出竜弥 (2年) | 15'35"15 |
| 5000m | 福永亮 (1年) | 15'47"91 |
| 5000m | 岩淵康太 (2年) | 15'55"40 |
| 5000m | 田村和也 (1年) | 16'00"36 |
| 5000m | 須藤克誉 (1年) | 16'01"77 |
| 5000m | 柏原翔一 (2年) | 16'30"80 |
| 5000m | 佐藤駿 (3年) | 16'31"11 |
| 5000m | 石黒駿 (1年) | 16'42"53 |
| 10000m | 坂井優太 (1年) | 37'08"42 |

2/1 神奈川ハーフマラソン

| | | |
|-----|-----------|---------|
| ハーフ | 福永亮 (1年) | 1:14'54 |
| ハーフ | 梶原秀朗 (1年) | 1:17'27 |
| ハーフ | 石黒駿 (1年) | 1:17'55 |

3/1 第18回日本学生ハーフマラソン

| | | |
|-----|-----------|---------|
| ハーフ | 小松息吹 (4年) | 1:08'31 |
| ハーフ | 松本啓岐 (1年) | 1:09'15 |
| ハーフ | 網谷直紀 (3年) | 1:09'36 |
| ハーフ | 田村和也 (1年) | 1:10'44 |
| ハーフ | 織原健人 (2年) | 1:11'50 |
| ハーフ | 福永亮 (1年) | 1:13'58 |
| ハーフ | 柏原翔一 (2年) | 1:16'10 |
| ハーフ | 石黒駿 (1年) | 1:17'45 |
| ハーフ | 坂井優太 (1年) | 1:19'24 |

3/22 第10回東京学芸大学競技会

| | | |
|-------|-----------|---------|
| 1500m | 小南直翔 (4年) | 4'03"69 |
|-------|-----------|---------|

3/28,29 平成26年度春季オープン

| | |
|-------|------------------------|
| 100m | 笠村洋子 (3年) 13"73 (+1.1) |
| 200m | 藤田健一 (3年) 23"16 (+1.8) |
| 200m | 森本淳基 (3年) 22"39 (+0.1) |
| 400m | 坪浦諒子 (2年) 1'00"71 |
| 800m | 藤原大樹 (2年) 2'08"60 |
| 1500m | 遠藤幸生 (2年) 4'36"62 |
| 1500m | 藤原大樹 (2年) 4'33"40 |
| 5000m | 小松息吹 (4年) 15'15"02 |

4/4 第48回東京六大学対校陸上競技大会

| | |
|-------|------------------------|
| 100m | 藤田旭洋 (4年) 10"62 (+2.0) |
| 100m | 藤田健一 (3年) 11"40 (-0.6) |
| 400m | 森本淳基 (3年) 49"68 |
| 800m | 加藤騎貴 (3年) 1'55"08 |
| 800m | 早川航平 (3年) 1'59"08 |
| 400mH | 宮原弘季 (4年) 53"80 |
| 5000m | 小松息吹 (5年) 15'12"31 |
| 5000m | 網谷直紀 (4年) 15'29"31 |
| 5000m | 鈴木敦士 (4年) 15'36"04 |
| 5000m | 柏原翔一 (3年) 16'28"23 |
| やり投げ | 加藤輝仁 (2年) 48m74 |
| 砲丸投げ | 奥村俊樹 (3年) 12m74 |

6. 応援OB・OG紹介

4/4(土)に、慶應義塾大学日吉競技場にて行われた六大戦に際し、応援に駆けつけて下さったOB・OGの方のご氏名をご卒業年順に報告いたします(敬称略)

| | |
|-------|-------|
| S35年卒 | 梅田圭良 |
| S38年卒 | 井上尚男 |
| S40年卒 | 石堂怜 |
| S40年卒 | 細越峻 |
| S40年卒 | 渡部一之 |
| S54年卒 | 中谷敬二 |
| S58年卒 | 八田秀雄 |
| S61年卒 | 成家秀樹 |
| H3年卒 | 小野満 |
| H3年卒 | 馬場勝也 |
| H13年卒 | 岡野浩行 |
| H15年卒 | 橋本武 |
| H16年卒 | 田坂和彦 |
| H20年卒 | 松本翔 |
| H22年卒 | 西川鋭 |
| H23年卒 | 近藤亮之 |
| H23年卒 | 斉藤瞬也 |
| H23年卒 | 園部竜也 |
| H23年卒 | 中島圭一 |
| H23年卒 | 西田昂広 |
| H23年卒 | 渡邊拓也 |
| H26年卒 | 原慎一郎 |
| H27年卒 | 今須宏美 |
| H27年卒 | 上野隆治 |
| H27年卒 | 栗田徹士 |
| H27年卒 | 篠田天馬 |
| H27年卒 | 筒井隆徳 |
| H27年卒 | 二宮翔平 |
| H27年卒 | 花岡さくら |
| H27年卒 | 早川頌 |
| H27年卒 | 山田銀河 |

ご多忙の中、お越し下さいましたことに現役部員一同、心より御礼申し上げます。

7. 行事予定

今後の行事予定をお知らせいたします。

| 日程 | 行事 | 場所 |
|---------------|---------|---------|
| 5/14(木)～17(日) | 関東インカレ | 日産スタジアム |
| 5/30(土) | 国公立戦 | 町田 |
| 7/4(土) | 四大戦 | 場所未定 |
| 7/11(土) | OB・OG戦 | 駒場 |
| 8/1(土), 2(日) | 七大戦 | 仙台・宮城野原 |
| 8/29(土) | 一橋戦 | 一橋 |
| 9/11(金)～13(日) | 日本インカレ | 大阪・長居 |
| 10/10(土) | 京大戦 | 駒場 |
| 10/17(土) | 箱根駅伝予選会 | 立川 |

8. 連絡先 (慶弔等)

慶弔のご連絡は下記連絡先までお願い申し上げます。

総務委員長：斎藤誠二

TEL：03-5370-9370

Mail：Seiji_Saito@suntory.co.jp

学生主務：鈴木敦士

〒174-0053 東京都板橋区清水町 38-1-605

Tel：080-6943-2138

Mail：shumu@uttff.org

学生主務補：千田周平

Mail：uttff.shumuho@gmail.com

部便り郵送不要の方は、お手数ですが学生主務補までご連絡下さい。

この部便りは陸上運動部ホームページ内の「OBOG向け」からもご覧になれます。

URL：<http://www.uttff.org>

並びに陸上運動倶楽部のメーリングリスト「uttff-club」にて、部便りのメール送付を行っております。メーリングリストへの登録をご希望の方は、お手数ですが学生主務または学生主務補までご連絡下さい。

また、陸上運動部の公式 twitter アカウント「東京大学陸上運動部 @TodaiTF」にて、試合結果の速報なども行っております。ご関心のあるかたはぜひともフォローをよろしくお願いいたします。

学生主務 鈴木敦士

編集後記

今シーズン初めの部便りをお送りしました。今回は二つの東大記録樹立ということで、記録樹立者に日頃の練習の様子や試合時の感触、これからの展望を語ってもらいました。関東インカレ1部昇格を目指す部の雰囲気を感じてもらえれば、幸いです。

なお、部便り内容に関するご意見等は以下のアドレスまでお知らせください。今後ともよろしくお願いいたします。

部便り主任 安藤和記
(Mail：ohzifdi9@gmail.com)